

## 中部国際空港における「Tail Wind 7kts」の運用が廃止

### ＜鳥衝突が頻発した開港当初の中部国際空港＞

中部国際空港は 2005 年に開港した、比較的新しい海上空港です。海岸が近いということもあって開港当初は数多くの鳥が飛来し、2007 年には年間数十万羽もの鳥類（主にウミネコ）が視認されました。そのため、多くのバードストライクが発生するのは必然で、記録によると 2007 年の 1 年だけで 100 羽以上のウミネコが航空機と衝突したとのことです。

そこで、空港管理者である中部国際空港株式会社（CJIAC）は、関係者と協議を行った結果、「バードストライクを防止するため、風速が概ね 7 ノット以下の場合、鳥の活動場所を考慮して滑走路が選定されることがある」という運用を決定しました。つまり、空港の南側に海鳥が数多く留まっている状況だったことから、「Tail Wind が 5kts を超えて 7kts 程度までの状況であれば、RWY18 からの離着陸を行うことで鳥衝突を回避出来る可能性が高い」という想定をした苦肉の策だったことが窺えます。

### ＜関係者の努力で鳥衝突は激減＞

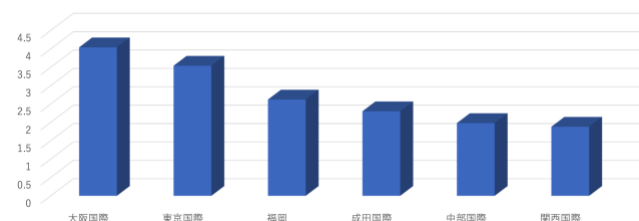
その後、関係者の努力と様々な対策が功を奏し、鳥類の飛来は激減しました。右図を見てもわかる通り、2010 年代以降は鳥視認数が低水準で推移しています。鳥類の飛来が減少したことで航空機の鳥衝突事例も減少し、2016～2020 年の鳥衝突件数は国内主要空港で最少の年平均 18.8 回、離着陸回数 1 万回あたりの鳥衝突率は年平均 1.98 回で国内主要空港の中で低位となっています（下図参照）。



鳥衝突件数 (2016～2020年 年平均)



離着陸回数1万回あたりの鳥衝突率 (2016～2020年、年平均)



※国土交通省 第 20 回鳥衝突防止対策検討会資料より

こうした現状の一方で、「Tail Wind 7kts の運用」という運用が残っていたことから、開港当時のことを知らない国内外のパイロットから「なぜ 7kts という国際基準に無い数字があるのか？」という疑問の声が挙がっていました。

### < 不必要な運用方法の廃止を要請 >

そこで航空安全会議は名古屋支部を中心に、以下の内容を 2021 年の CJIAC に対する要請事項として提出しました。

要請事項：鳥衝突防止を目的とした「Tail Wind 7kts」の基準廃止

要請理由：過去、鳥衝突の可能性が高いエリアを回避することを目的として、「Tail Wind 7kts まで許容される」旨の Local Rule が存在するが、適切な鳥類駆除が実施されている状況から必要無い規定であること、また国際基準と照らし合わせても合理的な説明が不可能なこの Local Rule を廃止すること

上記要請に対し、2021 年の CJIAC は以下のように回答しました。

回答：開港当初から鳥（ウミネコ、コアジサシ）の飛来が多く、2011 年頃に CJIAC、CAB、運航者で話し合い設定した背景がある。特に滑走路南端に多かった。鳥に対する対応として、注意の段階と警戒の段階に分けており、BIRD SWEEP などで排除不可の場合は後者を適用する。警戒の段階のような不測の事態の手段として記載を残したい。

### < 再度の要請により、廃止を決定 >

これに対して、航空安全会議は「ここ数年、警戒の段階の事態になっていないこと」「Tail Wind 7kts という数字だけが一人歩きする恐れがあること」を主な理由とし、引き続き廃止することを要請することにしました。

2022 年も同様の要請を行った結果、CJIAC から以下の連絡を頂戴しました。

回答：本件について、関係者間で課題の共有を行い、現在の鳥対策の状況も踏まえ、削除について検討を進めていく予定としておりました。

この度、航空局、航空会社、空港会社にて検討を行い、11/3 発行の AIP 改訂版にて当該文言（RJGG AD 2.20 LOCAL TRAFFIC REGULATIONS 1.1.2）を削除する運びとなっております。AIP の記載は削除しますが、今後の鳥の出現状況の変化に応じて、関係者間で連携しながら柔軟に対応を行っていくことが肝要かと存じますので、引き続きのご協力をお願い致します。

### < 今後も、現場に寄り添った要請活動を続けていきます >

中部国際空港において、CJIAC や航空局をはじめ、多くの空港関係者の尽力で鳥衝突事例が減少したことに對し、航空安全会議として改めて敬意を表します。

一方、約 10 年に渡って実態を反映していない運用方法が残ってしまうことは、パイロットや管制官にとって必要の無い不安や混乱を生じさせる要因となります。こうした事態を解消するため、現場の声を航空行政に届けて改善を諮ることが必要なのは言うまでもありません。航空安全会議は、これからも地道な要請活動を継続していきますので、皆さまからの声をお待ちしております。

以上



⇐ アンケート実施中！  
(クリックまたは QR コードから)